

私学助成署名推進ニュース

全国私学助成をすすめる会(事務局:全国私立学校教職員組合連合)
No.5 2023年7月13日(木) 訂正

7・7「学費の公私間格差・自治体間格差是正を考える院内集会」その1 全国から結集して私学助成概算要求増額を訴える



7月7日(金)の猛暑の中、東京永田町の衆議院第二議員会館「多目的会議室」を会場に「7・7学費の公私間格差・自治体間格差是正を考える院内集会」が開催され、全国から138人の私学父母・高校生・教職員が参加しました。国会議員は与野党すべての主要政党・会派から本人23人、代理56人、計79人が参加してくださり、高校生や父母の訴えに耳を傾けていました。この日、全国から切実な声を集めた25,595枚のひと言ハガキ・個人署名と24枚の団体署名を積み上げ、集会后に文科省への要請に際して提出しました。

「教員の労働条件は子どもの教育条件」

集会の冒頭、今年の全国父母懇・私学助成をすすめる会交流会会広島大会の実行委員長でもある礒元千波共同代表は「広島は年収590万円以上世帯に県独自補助制度がないので、所得制限は本当に『崖』に見えます。知り合いにはパートを制限している人もいます。県による違いをなくすためにも、国の就学支援金を拡充してほしいです」とあいさつで述べ、秋に予定している全国父母懇交流会会広島大会への参加を呼びかけました。つづいて山口直



之共同代表は私学の非正規教員率、時間外労働の実態、学費滞納調査の事例集など独自の調査に基づく数値や具体例に触れつつ、就学支援金を年収910万円まで「前年度授業料全国平均額」の支給を国に求める「政策」を発表したことを紹介し、「教員の労働条件は子どもの教育条件。経常費助成1/2助成の実現と就学支援金の大幅拡充で、ほんとうの『私学の無償化』を実現させましょう」と基調の報告を含めてあいさつしました。

高校生・父母が直接国会議員を前に訴え

愛知・相山女学園高校の長谷川結以さん

「両親は私学への進学を認めてくれましたが、入学金や制服の費用などのお金はかかっています。申し訳ないと思っています。希望の私学に入学しましたが、コロナ禍で理想の学校生活ではありませんでした。期待するだけ無駄で感情が「無」になっていました。そんな中で愛知高校生フェスティバル実行委員会に誘われ、私学助成や平和、貧困の問題などを学びました。現在「高校生1万人アンケート」に取り組んでいて、この夏に結果を国会議員に届けたいと思っています。学費のことで苦しんでいる仲間がいるので、そんな人を減らすためにがんばっていきます」



京都・三宅佳代子さん(写真左)

「滋賀から京都の私学へ通っていますが、県が違おうので補助がもらえません。友人の子どもで、親に迷惑をかけないようにと公立高校へ進学した子がいます。こうしたことをなくしたい」



埼玉・佐藤真由果さん(写真右)

「うちの子どもは発想力が独特です。こういう子どもを私学は受け入れてくれます。同じような子どもがいる知人はひとり親家庭で公立へ進学し、今は通えなくなっています。私学へ通うのは決して裕福だからだけではありません。制度の拡充を求めます」

午後は教育全国署名スタート集会

議員会館の集会后、分担して省庁・政党に要請をおこない、さらに午後には星稜会館に再び集まり、公立と共同のスタート集会に参加しました。集会の参加は全体で210人、このうち私学関係は135人でした。東京の正則高校、和光学園から多くの父母・教職員が来場し、大東学園高校の生徒6人も期末試験を終えて駆け付け、今年度の目標や意気込みを発表しました。礒元千波共同代表は閉会あいさつで「先生の元気は子どもの元気！子どもの元気は保護者の元気！公立・私立ともに元気な学校が増えるように、みんなで力を合わせてがんばりましょう！」と述べ、長い一日を締めくくりました。



国会議員一覧は「その2」に掲載します。